

立川総合病院年報のご挨拶

世界を見渡せばコロナ感染パンデミックが続いており、国内ではワクチン接種が進んでも終息の兆しが見えません。そんな中、2月末よりロシアのウクライナへの侵略が続いています。今後の展望はありません。第二次大戦後共に築き上げてきた価値観がないがしろにされています。何という1年だったのでしょうか。

ここに立川総合病院年報をお届けできることはまさに「有難い」ことです。

今回はご挨拶として近況報告をさせていただきます。

本県ではコロナ禍、救急医療から介護福祉に至るまで、多くの関係者の並々ならぬ努力により大きく崩れることなく粛々と進められてきました。他方、以前からの課題である地域医療構想、公立・公的病院再編、公民格差問題はより鮮明に炙り出され、その根底に全国最下位と言われている医師不足があることは共通の認識かと存じます。

そこで法人の基本方針の一つとして県外からの支援も積極的にお願いして来ました。特に若い医師たちにとって同じ病院・診療科内で他大学出身者とともに経験を積むことは新鮮かつ将来への財産となるのではないのでしょうか。

昨年4月立川総合病院に呼吸器外科医師2名着任、呼吸器内科とともに「呼吸器センター」が始動、本年1月悠遊健康村病院に新築した透析施設(31床)も始動しました。3月には長岡市東西道路が全開通し市の環状道路網が完成、立川総合病院と悠遊健康村病院群が最短で結ばれ、移転事業の一区切りが出来ました。

悠遊健康村病院の透析施設は種々な要因による通院困難症例の受け入れを主目的としておりますが、立川総合病院腎センターと信濃川を挟んでの立地によりライフラインが別建てとなっており、知事の“県の施策一丁目一番地”である災害時の事業継続体制(BCM)がより強化されました。

今後数年以内に北陸道大積スマートIC～国道8号～東西道路が直結し、長岡版広域道路ビジョンに示す「中越地域の一体性を強化する東西軸」が整います。これにより柏崎厚生病院群とも最短で結ばれます。法人としても大いに期待しているところです。

令和4年、立川メディカルセンターでは上記3病院に交代を含め医師28名、看護職50名はじめ67名の専門職員を迎えました。全職員にとって魅力ある法人となるよう努力してまいります。

本年度が皆様にとって実り多い良い年になることを心より願い、年報のご挨拶とさせていただきます。

令和4年5月31日

医療法人立川メディカルセンター
理事長 吉井 新平